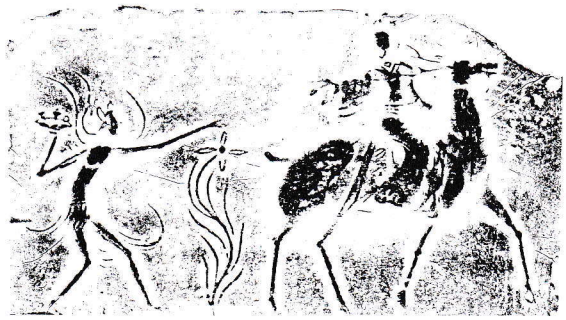


大分県書道　令和７年８月号　No.４２２

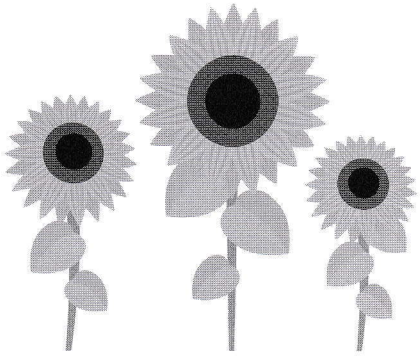
「暑中御見舞い申し上げます」

副会長　今井清美（南州）

梅雨明けと同時に、ギラギラの太陽が毎日容赦なく照り続けていますが、皆様お変わりありませんか。

さて、先日県書写や県書道の作品審査が送られてきました。今回の私の担当は、大人の実用書です。楷書や行書とは異なり、皆さん気楽に作品づくりに取り組まれているように感じられました。一応、参考手本が掲載されているので、作品に統一感があり無難な感じでしたが、作品の中にハッとするような物がなかったのがちょっと残念でした。

実用書ですから、楷書や行書のように社中が違えば大きく違うという事はないと思うのですが、皆さんはそれぞれに楷・行書においては臨書をされているのですから、それらの文字を引用し、平がなと組み合わせて作品を作るっていうのはどうでしょうか。毎月の練習をこのようにして学ぶと、おのずとご自分の中に取り込まれて、普通に手紙文などが上手になれるのではないでしょうか。

県書連の先生方はそれぞれに書風は違いますが、皆さんそれぞれに味のある文字を書かれます。どの先生も、漢字の古典を学び今現在に至っているのですが、それぞれに文字は異なります。顔が違うように、終着点は異なるのです。なんだか不思議な気がしますが、どの先生も会員の皆さんの文字の上達を願って、毎月の手本揮毫をされていると思います。本当に真面目に書道に向かい合っている先生方は他に見た事がありません。中に居る私達が心からそう思える団体であります。私自身、最後まで学び続け、少しでも皆様のお役に立てるよう、がんばっていこうと思っています。柗苼会長始め諸先生方のご意見・アドバイス、よろしくお願い申し上げます。

最後に折角書道をやってきましたから、自分でも「チョットいいかな」と思える作品が書けるよう、努力したいと思います。